



ゾーン制運賃の導入

■ 運賃見直しの必要性

- ・**運賃低減バス運行事業** 第4期が令和7年9月に終了するため、10月以降の方向性を示す必要がある。
- ・**運行経費の高騰** 2度の消費税の引き上げを考慮しておらず、かつ、人件費・燃料費等が高騰している。
- ・**本来の上限運賃との乖離** 運賃低減バス運行事業導入時は2倍程度だったが、現在は最大4倍程度に達している。
- ・**バス事業者からの要請** 運賃低減バス運行事業により、収支改善の方法が制限されているほか、バス事業へのプライドの観点から、少なくとも運賃低減バス運行事業の前の運賃に戻すことを求められている。（菅平高原急行便の新設）

※運賃は、本来は、**適正原価・適正利潤**の範囲で、交通事業者が決め、国の認可を受けるもの

上限運賃の基本的な考え方(対キロ区間制)

基準賃率

・1人を1キロ輸送するのに必要な費用をもとにした
運賃率(支出(営業費+利潤)⇔収入)



キロ数

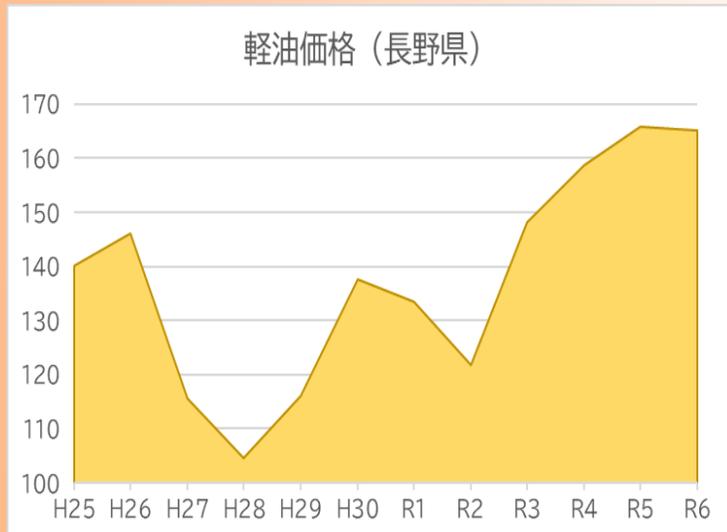


**遠距離
逓減率**



ゾーン制運賃の導入

- 参考：運賃低減バス運行事業導入時（平成25年10月）からの物価等の変動状況



H25 140.1円 → R6 165.1円



H25 713円 → R6 998円



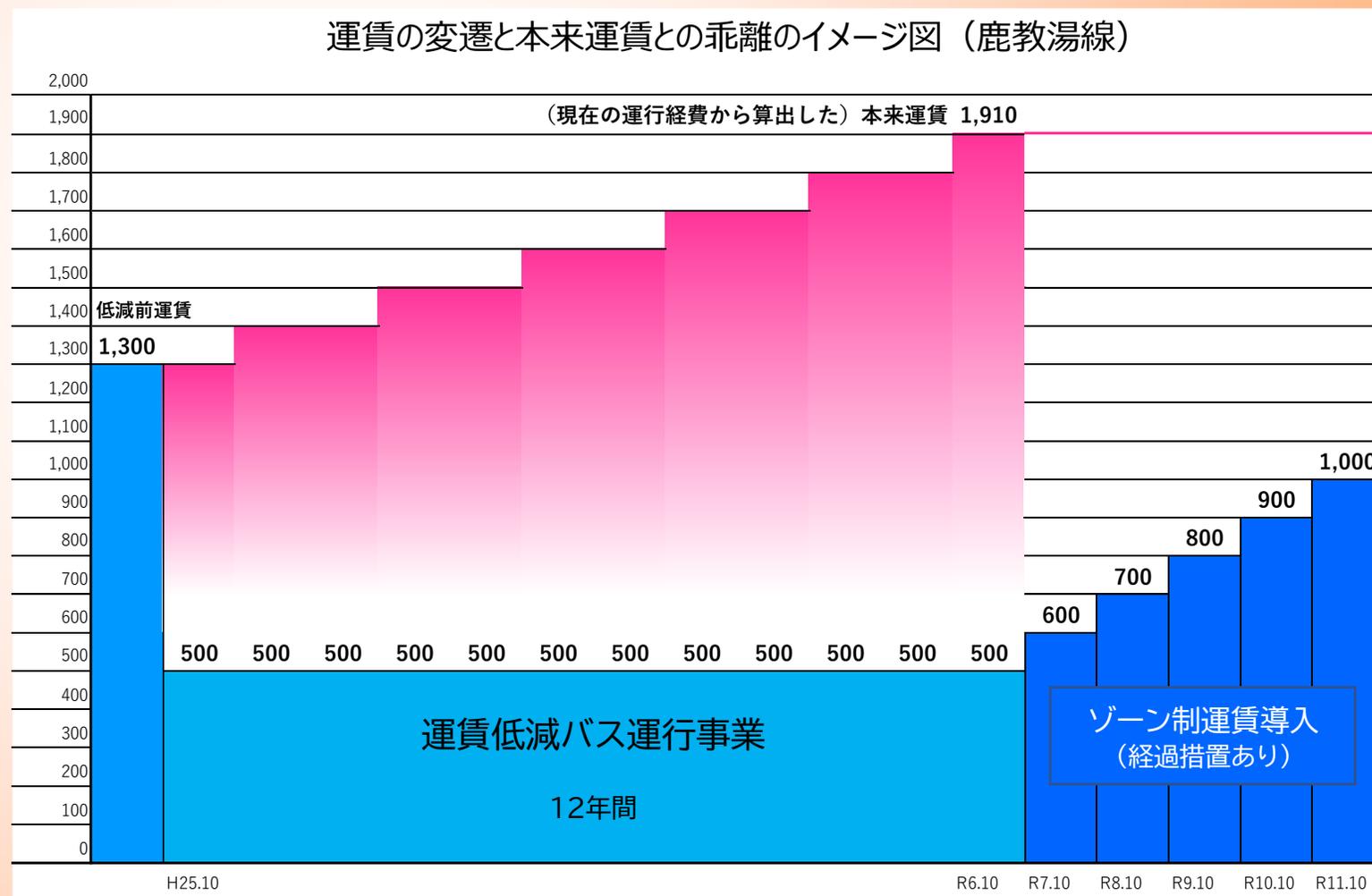
H25 0.95 → R6 1.09 ※R元が1.00



ゾーン制運賃の導入

■ 参考：本来運賃との乖離の状況

- ・運賃低減前の運賃（1,300円）と運賃低減の運賃（500円）の乖離は、2倍程度（鹿教湯線は2倍強）であった。
- ・しかし、本来運賃（1,910円と試算）と運賃低減の運賃（500円）の乖離は、4倍程度に達している。





ゾーン制運賃の導入

■ 運賃見直しの方向性

- ・運賃低減バス運行事業の効果と課題を検証し、第4期終了に伴い、事業の効果を継承することができ、乗車キロ数に応じて負担をお願いし、本来運賃との乖離を是正することができる運賃制度として、本年10月からゾーン制運賃を導入する。

運賃低減バス運行事業の効果と課題

効果	課題
1 利用者数の増加 利用者数が年間最大20万人規模で増加した年度もあり、路線別では事業導入前の2倍以上に増加した路線もある。	1 事業者のインセンティブが働きにくい 制度導入前1年間の運送収益相当額に対して、当該年度の運送収益が下回った場合はその差額分を負担金として補填する制度であり、利用者の増加により収益が増加すると負担金が減額となる仕組み
2 利用者の負担軽減 高校生等における通学費の負担軽減に寄与	2 財源の確保 負担金はバス事業者への欠損額に対する補助ではなく、特別交付税措置の算定対象外
3 運賃確認等に係る負担軽減 50円単位の運賃のため、運転手の運賃確認の負担が少なく、利用者も10円単位の小銭の用意が不要	

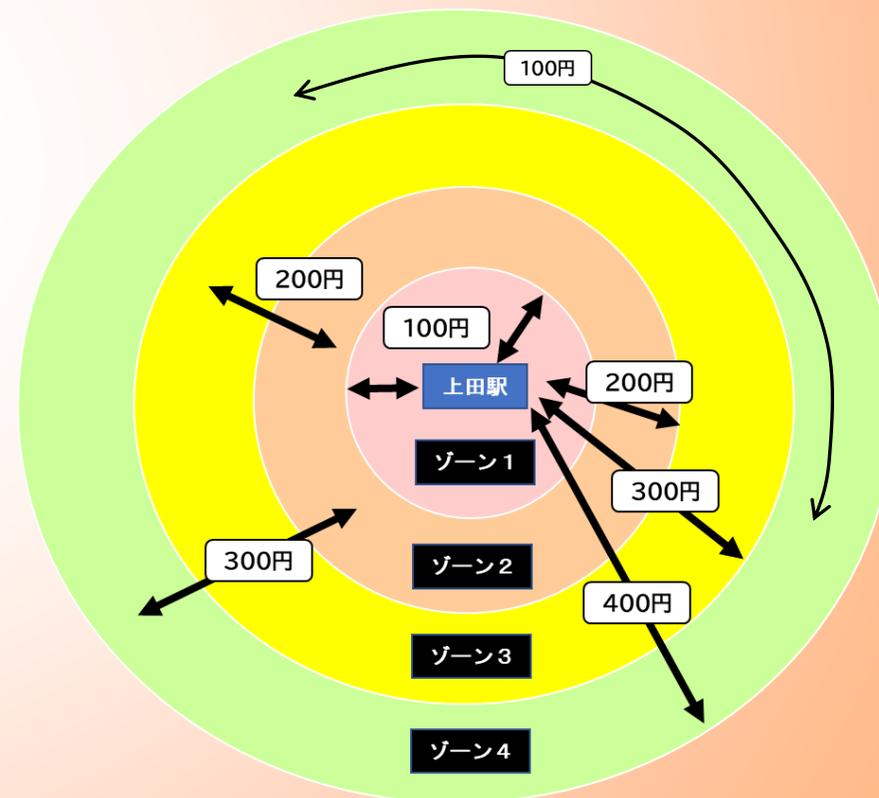


ゾーン制運賃の導入

概要

- 1 種別 協議運賃(関係者が協議して決める運賃)
- 2 制定形態
地帯制(運行系統沿線をゾーン分けし、ゾーンをまたぐごとに運賃を加算)
- 3 ゾーン設定
上田駅を中心として、上田駅からの距離を勘案し、概ね同一生活圏となる地域ごとにゾーンを設定
- 4 運賃設定
初乗り100円。ゾーンを跨ぐごとに100円を加算し、1,000円を上限とする。

ゾーン制運賃のイメージ図





ゾーン制運賃の導入

■ 経過措置

ゾーン制運賃の導入により、500円から1,000円に引き上げとなる地域もあることから、利用者の負担を考え、1年ごとの引き上げ額を基本100円に設定。5年をかけて、段階的に引き上げる。

乗車区間	R7.9まで	R7.10～	R8.10～	R9.10～	R10.10～	R11.10～
上田駅前～鹿教湯車庫	500円	600円	700円	800円	900円	1,000円
上田駅前～真田自治C	300円	400円	500円	500円	500円	500円
上田駅前～下沖	400円	500円	600円	700円	800円	800円
上田駅前～青木BT	300円	400円	500円	600円	600円	600円



ゾーン制運賃の導入

■ 菅平高原線、傍陽線の各運賃の比較

菅平高原線

停留所	H25年9月 運賃	本来運賃 (試算)	運賃低減 (現行)	ゾーン制 (改定)	改定額
上田駅前					
新田	100円	210円	100円	100円	0円
上田検査場前	250円	410円	250円	200円	▲50円
下原	400円	640円	300円	300円	0円
本原	450円	690円	300円	400円	+100円
石舟	550円	880円	300円	500円	+200円
真田	650円	1,010円	300円	600円	+300円
和熊口	750円	1,190円	350円	700円	+350円
菅平口	910円	1,380円	450円	800円	+350円
別荘入口	1,200円	1,620円	500円	900円	+400円
大松	1,300円	2,030円	500円	1,000円	+500円

傍陽線

停留所	H25年9月 運賃	本来運賃 (試算)	運賃低減 (現行)	ゾーン制 (改定)	改定額
上田駅前					
新田	100円	210円	100円	100円	0円
上田検査場前	250円	410円	250円	200円	▲50円
下原	400円	640円	300円	300円	0円
本原	450円	690円	300円	400円	+100円
横尾	590円	890円	300円	500円	+200円
八幡前	640円	1,010円	300円	600円	+300円
入軽井沢	740円	1,240円	350円	700円	+350円



ゾーン制運賃の導入

■ 青木線の運賃の比較

青木線

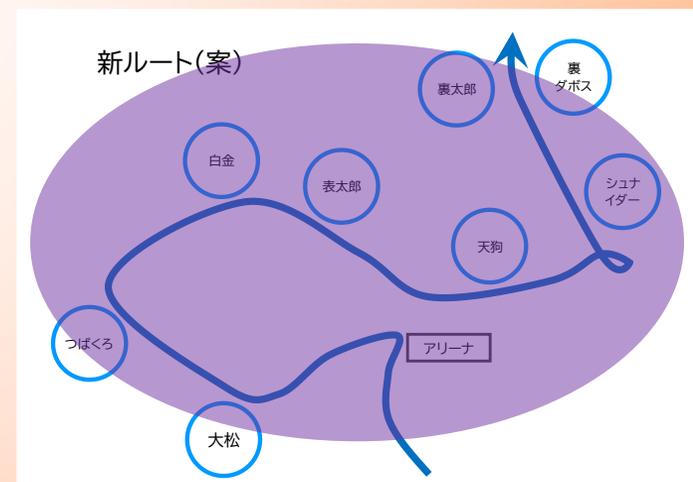
停留所	H25年9月 運賃	本来運賃 (試算)	運賃低減 (現行)	ゾーン制 (改定)	改定額
上田駅前					
三好町二丁目	180円	260円	100円	100円	0円
農協川辺支所前	360円	370円	300円	200円	▲100円
小泉	440円	640円	300円	300円	0円
出浦上町	560円	820円	300円	400円	+100円
殿戸	630円	920円	300円	500円	+200円
青木バスターミナル	690円	1,010円	300円	600円	+300円

■ 長久保線への適用（検討）

通学定期について、ゾーン制運賃額の適用に向け検討を進める。

補足(隠れたメリット)

ゾーン制運賃に1,000円の上限を設定するから、1,000円のゾーンが広くなり、菅平高原線では、羽根尾停留所から終点までがひとつのゾーンとなり、1乗車100円で菅平高原内を移動できる。





ゾーン制運賃の導入

■ 経過措置

ゾーン制運賃の導入により、500円から1,000円に引き上げとなる地域もあることから、利用者の負担を考え、1年ごとの引き上げ上限額を100円に設定。5年をかけて、段階的に引き上げる。

乗車区間	R7.9まで	R7.10～	R8.10～	R9.10～	R10.10～	R11.10～
上田駅前～鹿教湯車庫	500円	600円	700円	800円	900円	1,000円
上田駅前～真田自治C	300円	400円	500円	500円	500円	500円
上田駅前～下沖	400円	500円	600円	700円	800円	800円
上田駅前～青木BT	300円	400円	500円	600円	600円	600円



高校生の利用促進

- ゾーン制運賃導入時は、通学定期利用券を**現行額**に据え置く。

例 上田駅前～真田自治C

時期	運賃 (片道 1回)	3カ月定期(往復)		無と有 の差額
		据え置き 無	据え置き 有	
現在	300円	30,780円	30,780円	0円
R7.10～	400円	41,040円	30,780円	10,260円
R8.11～	500円	51,300円	30,780円	20,520円

4割引!

パターンダイヤ化により、真田地域では約30分に1本、バスが来ます！
送迎は、高いガソリン代の支払いだけでなく、運転する家族の時間や経済活動の機会が失われます。
この機会に、是非、バス通学をご検討ください。



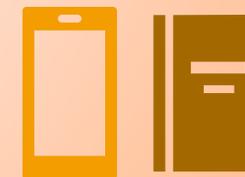
高頻度利用者の負担軽減

- チケットQRのプリペイド式回数券のプレミアム率の引き上げ
- 紙のカードも発行



現行 2,000円で2,200円分（プレミアム率10%）

追加 5,000円で**6,000円分**（プレミアム率**20%**） ※上田バスと千曲バスが対象





その他運賃の見直し

- オレンジバス 1乗車 **200円** (定額) とする。

上田バス(平成21年購入)
月・木 西塩田コース
火・金 東塩田コース
水・土 豊殿・神科コース

千曲バス(平成13年購入)
月・木 城下・塩尻コース
火・金 神科・神川コース
水・土 浦里・室賀コース

※今後の車両更新を見据える。



- 別所線の運賃 動力費の高騰などを踏まえ、将来的な値上げの検討も必要